

平成25年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)
(予知公募研究)

1. 課題番号 2013-Y-02 (※2918)

2. 研究課題名 (データベース化に必要ですので課題名の英訳を御記入ください)

和文: 模擬断層ガウジの動的破壊過程に関する実験的研究

英文: Experimental study of dynamic rupture process of simulated fault gouge

3. 研究代表者所属・氏名 静岡大学大学院理学研究科 平内健一

(地震研究所担当教員名)

4. 参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	参加内容
武藤潤	東北大学・助教	実験補助
矢部康男	東北大学・准教授	実験補助

5. 参加者が分担した役割 (200-400 字程度で記入してください)

東北大学設置の大型二軸摩擦試験機を用いてスティック・スリップ実験を行った。出発物質には石英、蛇紋石 (リザーダイト/クリソタイル) などを用いた。その結果、スティック・スリップの間隔や応力降下量は、法線応力やすべり速度に顕著に依存することがわかった。

6. 研究実績 (論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無)

Ken-ichi Hirauchi, Jun Muto, and Kenshiro Otsuki, 2013, Effect of stress state on slow rupture propagation in subduction fault zones. American Geophysical Union, T41A-2550, San Francisco, U.S.A.